

後の千金のこと

今は昔、¹唐に²莊子といふ人ありけり。家いみじう貧しくて、今日の食物絶えぬ。

隣にかんあとうといふ人ありけり。それがもとへ、今日食ふべき料の粟を乞ふ。

あとうが言はく、

「いま五日ありておはせよ。千両の金を得むとす。それを奉らむ。いかでかやむ」となき人に、今日参るばかりの粟をば奉らむ。返す返すおのが恥なるべし。」

と言へば、莊子の言はく、

「昨日、道をまかりしに、あとに呼ばふ声あり。返り見れば人なし。ただ車の輪跡のくぼみたるところにたまりたる少水に、鮒一つふためく。何ぞの鮒にからむと思ひて寄りて見れば、少しばかりの水に、いみじう大きなる鮒あり。『何ぞの鮒ぞ。』と問へば、鮒の言はく、『我⁴は河伯神の使ひに、⁵江湖へ行くなり。それが飛びそこなひて、この溝に落ち入るなり。のど乾き、死なむとす。我を

4 河伯神 河を守る神、の名。
5 江湖 川と湖の意。ここは長江下流の辺りをいうか。



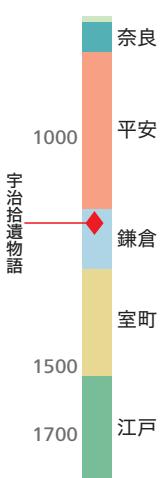
助けよと思ひて、呼びつるなり。』と言ふ。答へて言はく、『我いま一、三日ありて、江湖といふ所に遊びしに行かむとす。そこに持て行きて放さむ。』と言ふに、魚の言はく、『さらにそれまで、え待つまじ。ただ今日⁶一提ばかりの水をもて、のどをうるへよ。』と言ひしかば、さてなむ助けし。鮒の言ひしこと、わが身に知りぬ。さらに今日の命、物食はずは生くべからず。後の千の金、さらに益なし。』とぞ言ひける。

それより、「後の千金」といふこと、

名譽せり。

(宇治拾遺物語)

6 一提ばかりの水 提一杯ほどの水。『提』は、つるとつぎ口の付いた銚子のような容器。



1 唐 中國のこと。
2 莊子 中国戦国時代の思想家、莊子の敬称。生没年未詳。『莊子』によると監を著す。
3 かんあとう 『莊子』によると監を著す。
4 河伯神 中国戦国時代の思想家、莊子の敬称。生没年未詳。『莊子』によると監を著す。
5 江湖 中国戦国時代の思想家、莊子の敬称。生没年未詳。『莊子』によると監を著す。
6 一提ばかりの水 提一杯ほどの水。『提』は、つるとつぎ口の付いた銚子のような容器。